

図書館等複合施設整備事業

まちと公共施設の未来をともに創造する

小千谷市にぎわい交流課 複合施設開設準備室

1

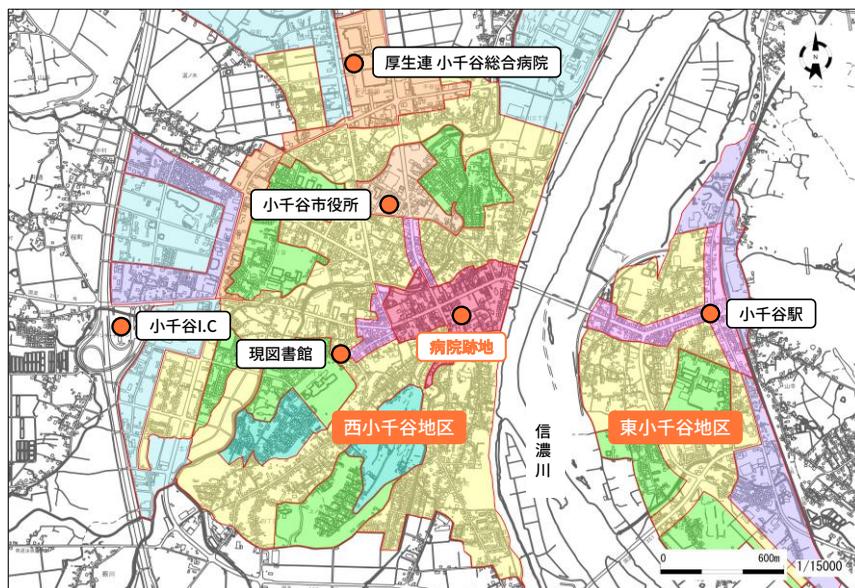
「図書館等複合施設整備事業」とは

中心市街地で長年にわたり立地し、人の流れや賑わいを創出してきた公益財団法人小千谷総合病院が郊外への統合移転に伴い閉院。その**病院跡地**に中心市街地の新たな顔となる**図書館等複合施設**を整備し、それを契機として**中心市街地の活力と賑わいの再創出**を図る。



- 設計者：(株)平田晃久建築設計事務所（東京都）
- 構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建
- 延床面積：約4,600㎡
- 駐車台数：約120台
- 主な機能
図書館、博物館相当施設、屋内広場、カフェ、スタジオ（音楽・ダンス）、ファブスペース、屋根付き屋外広場

2



本町商店街

標準地：本町1-13-26 (本町商店街)

平成8 (1996) 年 **252,000** 円/㎡



令和5 (2023) 年 **43,100** 円/㎡

27年連続下落

病院跡地の活用検討

中心市街地の活力や賑わいを再創出する好機として捉え、立地適正化計画の策定検討とあわせ、市街地のあり方を整理。



小千谷市立地適正化計画（平成29（2017）年3月策定）

持続可能な都市構造への再構築を目指し、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するためのマスタープラン。

平成24（2012）年8月 市内2つの総合病院の経営統合基本合意
（公益財団法人 小千谷総合病院・厚生連 魚沼病院）

病院跡地活用の検討期



PFI事業期



共創型PPP期

幅広い世代から利用される**図書館の集客力**を生かし、**図書館以外のさまざまな機能**を付加することで、さまざまな使い方や過ごし方を実現し、さらなる利用者の増加や滞在時間の長時間化を図ることにより、中心市街地に新たな人の流れをつくる。

その結果、**施設周辺に民間事業者による魅力的な商品やサービス**が生まれ、施設利用者が周辺エリアにも足を運び、そこで消費行動を行う。



図書館等複合施設が **“集客装置”**として機能し続けること が前提

普遍的な集客装置



みんなの広場

多種多様な人々が多様なままに自分らしく居られる日常の居場所。

あらゆる人々が利用可能性を持つ場。

● 「過ごし方」の自由さ

制約となるような要素を最小限にした施設運営

● 「場」の自由さ

同じ場所でもアイデア次第で多様な過ごし方を可能とする建築空間の柔軟さ

● 「考え方」の自由さ

それぞれの人生観や価値観、思想をゆがめることなく、お互いに認め合える人と人の関係

図書館の役割 = 「知る」を支える



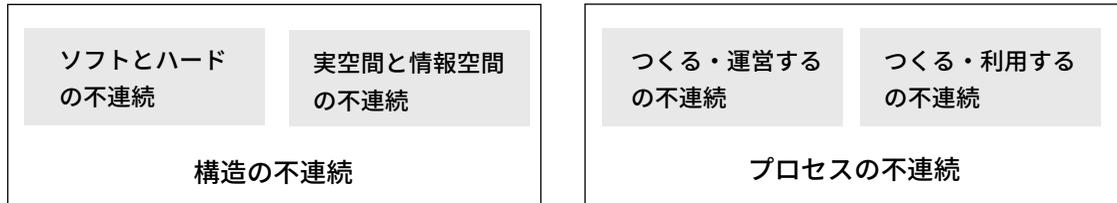
情報の姿が変わった、情報と人をつなぎ直す



収蔵資料提供の場から情報技術を基盤とする社会インフラへの転換

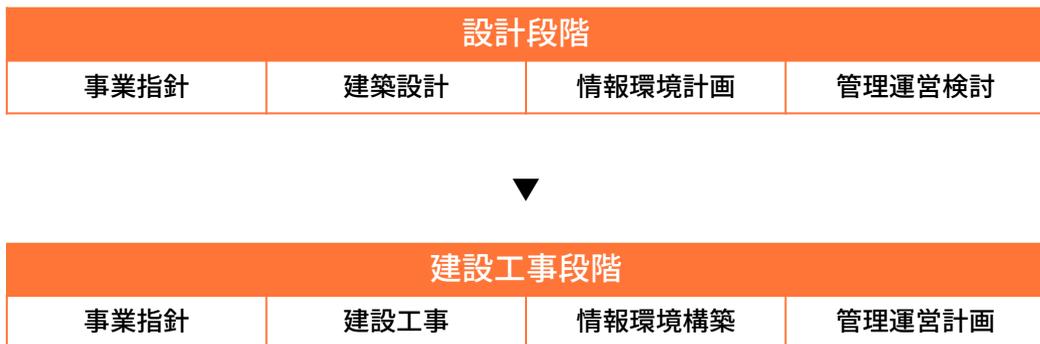
- 多様な情報資源へのアクセスの場
- 情報を創造する場
- 情報を扱うスキルを獲得する場
- 多様なコミュニティが生まれる場

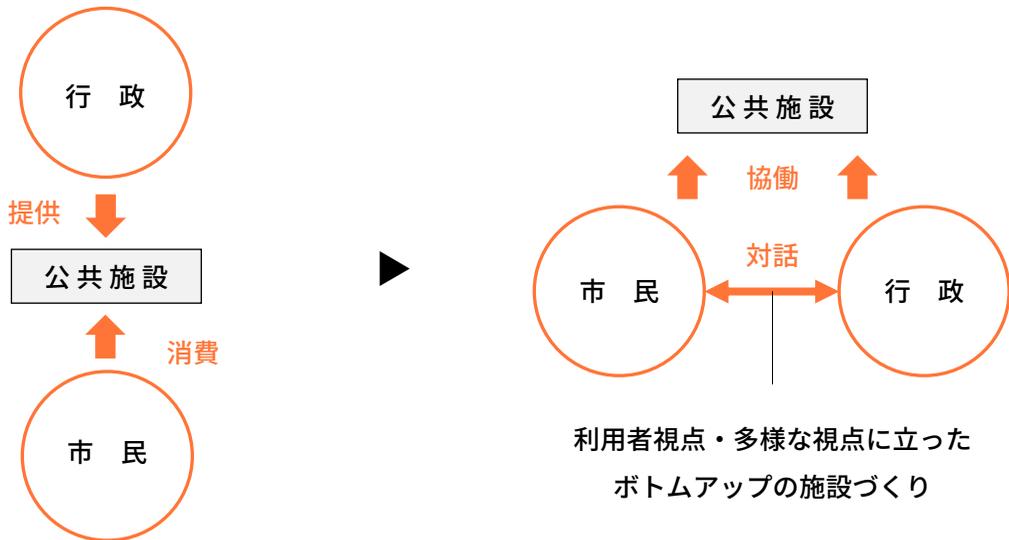
使いづらい、利用されない公共施設（空間）が生まれるリスク



つくる、運営する・利用するの一体的な検討

➔ 建築空間・情報環境・活動の融合





共創

“わたしたちの施設づくり、まちづくり”を目指し、**市民、事業者、行政など多様な主体が共に考え、想いを共有しながら、共につくっていくこと。**

「共創」を実践する場として、**小千谷リビングラボ「at!おぢや」**を立ち上げ、協働しながら進めることで、利用者と運営者双方にとって使いやすく愛着の持てる空間づくりを行い、**新しい日常をつくっていく。**

まち全体に関わる問題



学校教育における学習指導要領、Society5.0の実現に向けたスマートシティの推進、デジタル田園都市国家構想総合戦略、SDGs、こども基本法・・・



多様性を原動力にした新たな価値創造 ➡ プラットフォームの必要性



公共施設の整備は夢のあるプロジェクトであり、市民からの関心が高い。

そうした事業のプロセスの中に、**多様性**を認識し、**包摂性・主体性**を育む要素を埋め込むことで人材育成を行いながら、プラットフォーム（＝小千谷リビングラボ）の社会実装を試みている。

小千谷リビングラボのこれまで

2020年12月

市民参加プラットフォームを育てるためのシンポジウム
まちと公共施設の未来を創造する

図書館

地域づくりと
市民協働

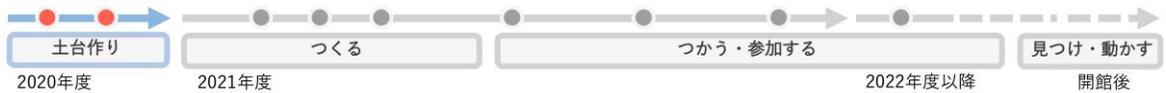
子どもの未来



2021年3月

まちと公共施設の未来をともに創造する
第1回小千谷リビングラボ (仮称)

リビングラボのあり方や愛称を考える



17

小千谷リビングラボのこれまで

愛称:「at! おぢや」に決定!



「at」(アット)には、一点に集中する、集まるという意味がある。みんなが一つの場所に集まって話し合い最終的には老若男女が集まる施設になって欲しい。「あっと」驚くようなアイデアが取り入れられた施設になるといいという願いを込めて。



18

小千谷リビングラボのこれまで

2021年5月

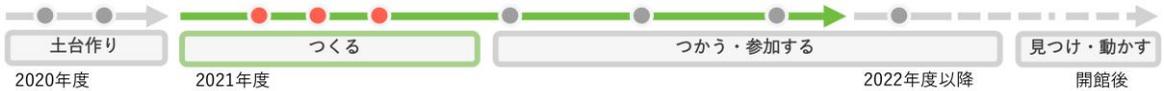
2021年6月

2021年7月

まちと公共施設の未来をともに創造する

第2～4回小千谷リビングラボ「at! おぢや」

おぢや体験マップづくり



小千谷リビングラボのこれまで

2021年5月

2021年6月

2021年7月

まちと公共施設の未来をともに創造する

第2～4回小千谷リビングラボ「at! おぢや」

設計プロセス
について

「風景」を
見つける



小千谷リビングラボのこれまで

2021年10月

まちと公共施設の未来をともに創造する
第5回小千谷リビングラボ「at！おぢや」

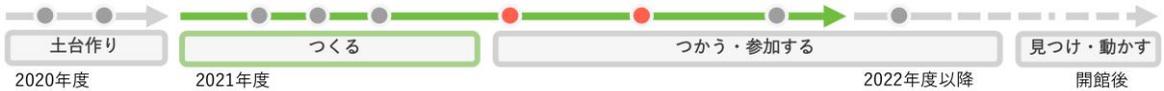
遊びの体験を掘り下げる



2021年12月

まちと公共施設の未来をともに創造する
第6回小千谷リビングラボ「at！おぢや」

アンカンファレンス



小千谷リビングラボのこれまで

2021年7月

2021年11月

2022年3月

小千谷市立南中学校
「ふるさと夢づくり教育」連続授業

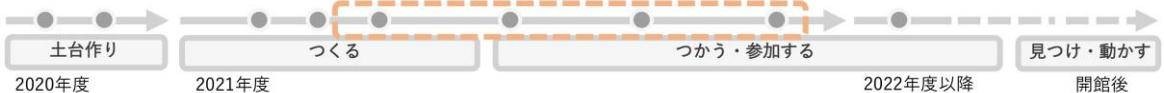
わたしたちの居場所と参加



わたしたちの『～したい』を
かたちに



わたしたちの未来を描こう！



2021年10月

2021年12月

新潟工科大学連携プログラム
「公共施設づくり・まちづくりをイノベーションする」

「公民連携から公共デザインへ」

まちを動かす
<共創>について



2022年2月

まちと公共施設の未来をともに創造する

第7回小千谷リビングラボ「at!おぢや」
オンライン

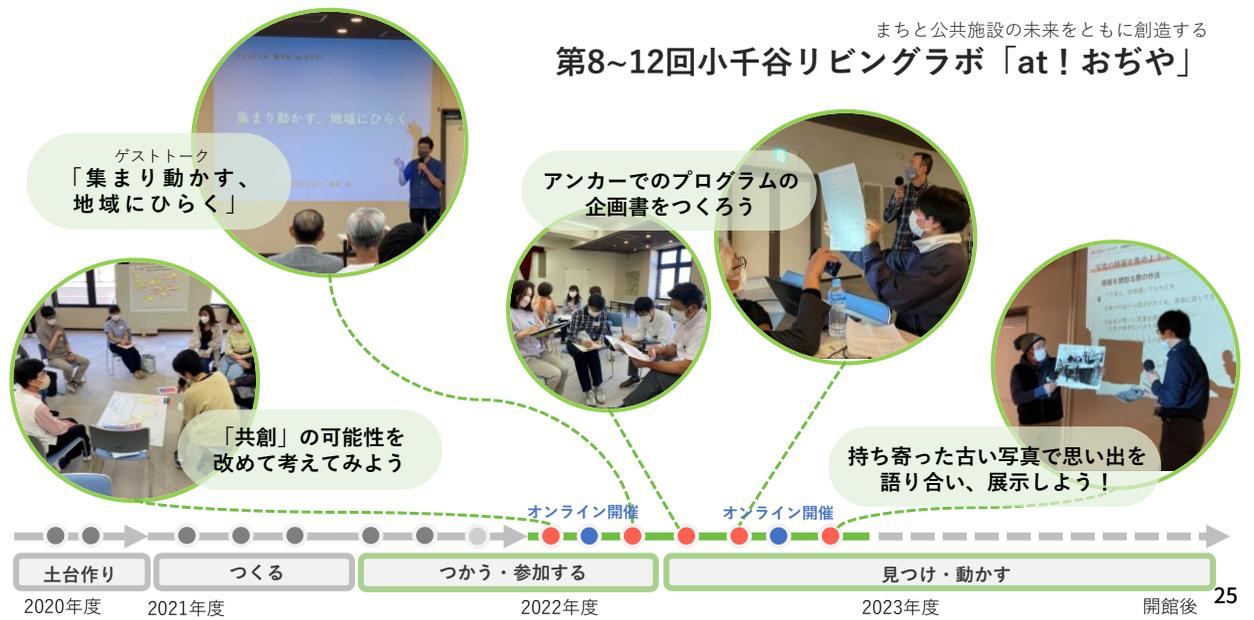
新潟工科大学生との
連携プロジェクトの発表

トークセッション
「みんなと自然が共鳴する建築」

トークセッション
「at!おぢやのこれまでとこれから」



まちと公共施設の未来をともに創造する
第8~12回小千谷リビングラボ「at!おぢや」



「共創」を促すために

開かれたプロセス

- 市民参画機会の創出
- 対話すること
- 情報公開



インタラクション（相互作用）を重視

イノベーション、新たな価値創造を生むための重要な要素

共創型PPPのこれまでの経緯

令和2（2020）年3月	PFI事業 優先交渉権者の辞退届受理	
” 9月	事業手法の再検討・決定 → 共創型PPP	
” 12月	市民参加プラットフォームを育てるためのシンポジウム	
”	施設設計業務公募型プロポーザル	参加者数：30者
令和3（2021）年3月	第1回小千谷リビングラボ	
令和4（2022）年7月	カフェ運営に係るサウンディング型市場調査	参加者数：8者
” 9月	施設新築工事（建築主体）制限付一般競争入札公告	参加者数：4者
” 11月	施設新築工事（電気設備、空調設備、衛生設備）制限付一般競争入札公告	参加者数：電気4者、空調2者、衛生4者
”	情報環境実装に係るサウンディング型市場調査	参加者数：12者
令和5（2023）年3月	情報環境構築業務公募型プロポーザル	参加者数：3者
”	カフェ運営事業者公募型プロポーザル	参加者数：3者
” 4～5月	施設の愛称募集	応募点数：1,745点

27

公募型プロポーザル

プロポーザル = 「人」「パートナー」を選ぶ



①施設設計業務、②情報環境構築業務、③カフェ運営を行う事業者の選定において実施。

それぞれ最終審査では1者あたり20分のプレゼンテーションと70分の対話を行った。従来のお互いが事前に想定した質疑応答を繰り返すのではなく、“第1回目の企画会議”のように、双方が聞いてみたいことや、話の流れで生まれたアイデアを話す中で、本事業に対する**思想と実現に向けたチャレンジ精神とそれを実装する技術力のバランス**を見極めることに意を払った。

また、その模様は**市民公開**で行い、一緒に考えていただく機会とした。※選考の模様は非公開。

28



市民公開による最終審査の様様

プロポーザルの特徴

- 参加資格として、設計チーム（意匠・構造・積算・機械設備・電気設備）の中に**情報環境（企画）**部門を追加。
- **小千谷リビングラボat！おぢやとの協働の中で建築設計を行う**こととし、同時に**情報環境計画の作成**を義務付け。
- 提案書テーマ
 - ・ **さまざまな機能の融合**
 - ・ **実空間と情報空間の融合**
 - ・ **「小千谷リビングラボ」との協働プロセス**
 - ・ **施設とまちのつながり**



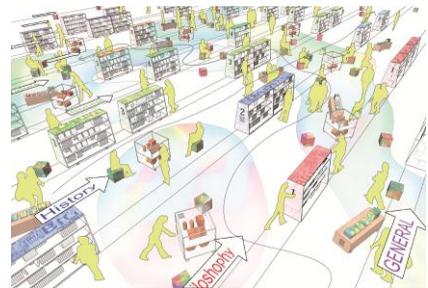
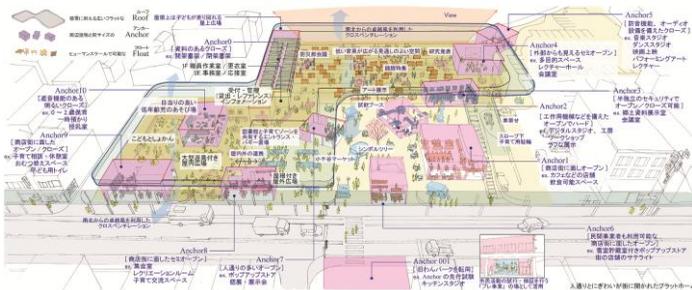
平田 晃久（京都大学教授／建築家／(株)平田晃久建築設計事務所）

京都大学大学院工学研究科修了。伊東豊雄建築設計事務所を経て、2005年に平田晃久建築設計事務所を設立。主な作品に〈Bloomberg Pavilion〉、〈Tree-ness House〉、〈太田市美術館・図書館〉など。2024年開業予定の「神宮前六丁目地区第一市街地再開発事業」の外装・屋上デザインを手がける。第19回JIA新人賞、Elita Design Award、第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞（日本館）、日本建築設計学会賞、村野藤吾賞など受賞多数。2016年にニューヨーク近代美術館の「Japanese Constellation」展に参加。

変化し続ける「小千谷のコト」を呼吸する、動的な場の棲み分けと情報システムの織物



「フロート」「アンカー」「ルーフ」と呼ぶ3つの建築的要素からなる施設を提案



イメージパース（鳥瞰図）



図書館における情報システムに対する問題意識

- 使いづらい、魅力的でない。→ UX、UIの重要性
- 収蔵資料のみならずデジタルアーカイブやさまざまなオープンな情報ソースをつなぎ、資料の種別を問わず検索可能にし、さらには地域の人々が自ら情報・知識を創造し、これを蓄積・共有する知的創造の循環をつくる。→ 新しい情報体験のデザイン
- 更新を含めた過大なコスト。→ 持続可能なシステムの構築の必要性



情報環境実装に係るサウンディング型市場調査【令和4年度】

- 情報環境計画及び上記問題意識の共有と事業者同士のマッチングの場として実施。参加事業者を公開し、上記問題意識をテーマとした全体対話と個別対話を行った。



情報環境構築業務 公募型プロポーザル【令和5年度】

公共施設におけるカフェ運営に対する問題意識

- テナント撤退による空きスペース化。
- 小千谷市という小さな商圈の中で図書館という無料施設におけるカフェ運営の難しさ。



カフェ運営に係るサウンディング型市場調査【令和4年度】

- カフェ機能の方針「飲食を提供するだけでなく、本施設やまちの日常の一部として、地域や人、産業とのつながりをつくり、憩いと交流が生まれる空間」を目指し、上記問題意識を中心に対話。



カフェ運営事業者 公募型プロポーザル【令和5年度】

上記方針の追求するに足る、企画力、営業力、運営力に加えて、共に創るコミュニケーション力を持った事業者であるかを評価の軸として選定。

● 募集期間／令和5年4月20日（木）～5月31日（水）

● 応募点数／1,745点

● 選定方法／

愛称選定委員会で最終候補作品4点（一般応募から3点、小千谷リビングラボでの創作・選定：1点）を選定し、その中から市長が最優秀賞1点を選定。

● 愛称選定委員（5名）／

- ・ 李 明喜（アカデミック・リソース・ガイド(株)／公民連携アドバイザー）※委員長
- ・ 平田 晃久（建築家／設計者）
- ・ 小千谷高等学校3年生
- ・ 小千谷西高等学校3年生
- ・ 小千谷市にぎわい交流課 複合施設開設準備室長



パブリックコメント

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。

管理運営計画(案)

「パブリックコメント」は、市民生活に大きな影響を及ぼす行政の施策、業務等を実施する過程において、これらの案の策定、内容等について市民の意見を聴き、策定に当たって市民等から寄せられた意見を参考に、施策の決定を行う一環の仕組みです。

ご意見募集中

募集期間：1月4日(木)～31日(水)

小千谷市では、令和6年9月のオープンに向けて本町1丁目を整備を進める「ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。」の管理運営計画（案）を作成しました。これは、施設の運営方針、展開する事業、受けられるサービス、開館時間、利用料金の考え方、運営体制などについてまとめたものです。このたび、この計画案を公表し、広くご意見を募集します。ご提出いただいたご意見等に対しては市の考え方を示し、ご意見を考慮した計画を策定します。

提出方法など、詳細はうらんでください。

小千谷市にぎわい交流課 複合施設開設準備室

民間の力を最大限生かすための行政職員の意識改革

本日は大変ありがとうございました。

「(仮称) ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。」では、これから他自治体のみなさん、民間事業者のみなさんなどと、多様な連携・企画を生んでいきたいと思っています。

興味・関心のある方、ぜひお声がけください！

小千谷市役所にぎわい交流課 複合施設開設準備室

担当：特命主査 土田 昌史

〒947-0031 新潟県小千谷市土川1丁目3番7号

TEL：0258-82-2724

Mail：tosyo-y@city.ojiya.niigata.jp

＼ フォローよろしく！ ／
小千谷リビングラボInstagram

